

## 参考文献

- 鈴木克明・美馬のゆり（編著）「学習設計マニュアル」北大路書房（2018）
- 鈴木克明（監修）・市川尚・根本淳子「インストラクショナルデザインの道具箱101」北大路書房（2016）
- 稲垣忠（著、編集）市川尚その他「教育の方法と技術：主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン」北大路書房（2019）
- L.B.ニルソン（著）・美馬のゆり・伊藤崇達（監訳）「学生を自己調整学習者に育てる アクティブラーニングのその先へ」（2017）
- スー・F、ヤング、ロバート・J、ウィルソン他、土持ゲーリー法一（監訳）「『主体的学び』につなげる評価と学習方法—カナダで実践される ICE モデル」東信堂（2013）
- 柞磨昭孝（著）「ICE モデルで拓く主体的な学び—成長を促すフレームワークの実践」東信堂（2017）
- 柞磨昭孝（著）「生徒も教師も楽しめる 問いづくりの実践」日本橋出版（2020）
- 土持ゲーリー法一（著）「社会で通用する持続可能なアクティブラーニング—ICE モデルが大学と社会をつなぐ」東信堂（2017）
- R・リチャードら（著）黒上晴夫ら（訳）「子どもの思考が見える21のルーチン：アクティブな学びを作る」北大路書房（2015）
- H・リン・エリクソン（著）「思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践：不確実な時代を生き抜く力」北大路書房（2020）
- 栗田佳代子（編著）「インタラクティブ・ティーチング—アクティブ・ラーニングを促す授業づくり—」河合出版（2017）
- 中村長史、栗田佳代子（著）「インタラクティブ・ティーチング 実践編1 学びを促す授業設計—クラスデザインの作法と事例集—」河合出版（2021）
- エリザベス・F・パークレイ、クレア・ハウエル・メジャー他「学習ハンドブック：アクティブラーニングを促す50の技法」東京大学出版会（2020）
- G・ウィギンズ、J・マクタイ著、西岡加奈恵（訳）「理解をもたらすカリキュラム設計」日本標準（2014）
- 奥村好美、西岡加奈恵「逆向き設計実践」ガイドブック：『理解をもたらすカリキュラム設計』を読む・活かす・共有する」日本標準（2020）

## おわりに

私は単元の終わりに、学習内容に関連した問いを生徒に投げかけます。

「今回の制作で学んだことを、自主制作にどう生かしますか？」

「誰もが鑑賞できるってどういうことだろう？」

「製品の機能性と見た目、どちらを重視したい？」

「美しい線とは何でしょうか？」

正解のない問いに、自分の知識や経験をもとに生徒は答えていきます。その問いがきっかけでさらに深く学ぼうとする生徒の姿がありました。私自身も学び続けなければと思います。

授業改善の取り組みは、私たち教師の「探究」活動ではないでしょうか。

「わからない」が多い活動かもしれませんが、これからも、生徒の姿を中心に据え「探究」に取り組んでいきましょう。

今年度もご協力頂き、ありがとうございました。